

LD等通級指導教室（よつばの教室）「自立活動」学習指導案

対 象 5年男子A, 5年男子B

指導者 増田 誠

1 題材名 自分について

2 題材について

(1) 児童について

【A児】

◇エゴグラム（質問紙による性格分析）…逆N型①

妥協を許さない，社会ルールに厳しい，生活を共にするのが難しいタイプ

A児は，日常生活において，思い通りにいかないことに対していらいらし，暴言や暴力を行うことがある。感情のコントロールを身に付けるために2年生から週2時間LD等通級指導教室（よつばの教室）に通っている。普段は，落ち着いて学習に参加し，一緒に活動することができる。折り紙や工作に興味をもち，黙々と作ることができる。しかし，授業中に友達が自分を責めたと誤解して怒りを発したり，遊びで負けたり，遊びの中でルールや友達の言動に怒りを表したりして，もめてしまうことがある。集会活動も含めた集団での活動が苦手である。時に感情を爆発させ，教室を飛び出してしまうこともある。また，やるべきことよりやりたいことを優先してしまうため，帰宅後はゲーム等で過ごし，夜になって宿題をしなければならない状況になると，いらいらを爆発させていた。なかなか宿題を家でできない現状を改善するため，気持ちを安定させるために，課題量を調整し登校後の朝に宿題を行うようにしている。鉄を使うことや図形の作図など，手先を使う作業は苦手である。

そこで，よつばの教室では，気持ちをコントロールする力を身に付けることを指導の目標とし，取り組んでいる。

【B児】

◇エゴグラム（質問紙による性格分析）…逆N型②

自己愛型，自分が大事で思いやりが乏しい，周囲の母性本能を刺激するタイプ

B児は，授業では，できない，やりたくない，分からないという発言をし，課題に取り組まないことがある。授業中に突然歌い出すこともあり，2年生から週2時間LD等通級指導教室（よつばの教室）に通っている。B児は，にこやかな表情で相手と接することができる。友達が困っているときに優しく声をかけることもできる。しかし，めんどうだと感じることを避けようしたり，会話の際に，質問された内容ではないことを答えたりすることがある。相手の話とは関係のない話を始めるため，やり取りがうまくいかないことがある。自分のしたいことだけを相手に要求するため，もめることがある。友達が嫌がることをしても，それに気付かずに，自分が避けられたり悪口を言われたりしたと思ひ込み，落ち込んでしまうことがある。また，書く作業を嫌うため，既習の漢字が定着していない。帰宅後はゲームをして過ごす。やりたいことが優先されるため，やるべきことが後回しとなっている。

そこで，よつばの教室では，相手の行動から気持ちを考えることや気持ちをコントロールする力を身に付けることを指導の目標とし，取り組んでいる。

(2) 題材について

本題材は，本児2名が自己理解を図り，自己の特性を更に認識し，今までの自分の言動をふり振り返りながら，これからのよりよいかかわり方や生活を考えるために設定した。

本題材では，はじめにエゴグラムの結果からそれぞれの性格を理解したり，アンケートによる自分の強み

と弱みの理解をしたりする時間を設定する。そして、それぞれの「目指したい姿」を意識しながら、心の安定を図るブレインジム、アンガーマネジメントと、実際にイライラしたときの気持ちを抑えるための「負ける練習」を段階的に繰り返し行う。また、「自分研究」では、自分自身の特性をキャラクター化することで、自分と問題行動を切り分けて考え、対処の仕方を学習する。

本児2名は、上記のようにタイプは異なるが、周りとうまくいくことや自分を認めてほしいという思いをもち、通級指導教室に意欲的に通うようになってきた。今までの学習の中で、友達に思いを伝えることや苦手なことに取り組む気持ちをつくることができるようになってきている。

本題材は、本児2名が自己理解を図り、己の特性を更に認識し、今までの自分の言動をふり返りながら、これからのよりよいかかわり方や生活を考えるために設定した。

○選定した自立活動の項目

1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
	(1) 情緒の安定に関すること	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること (2) 他者の意図や感情の理解に関すること (3) 自己の理解と行動の調整に関すること (4) 集団への参加の基礎に関すること	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること		(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

(3) 指導について

A児とB児は、同学年であり、お互いの感情を素直に出せる。また、相手を思いやる気持ちがあり、間違いや失敗をフォローし合う様子が見られるなど、良好な関係にある。そこで、本児らにとって苦手とする「相手の気持ちを考えて行動する」ことについて、ペア学習を通して段階的に指導していき、自己理解と自己コントロールの成功体験を積み、学級担任や保護者と連携しながら、実際の生活場面でも生かしていけるよう指導していきたい。

そのために、落ち着いて学習できる場を整え、自分の課題に向き合いやすい状況作りをしていく。また、見通しをもって活動できるように学習活動を掲示したり、具体的場面を意識できるように事例をもとにロールプレイを実施したり、自分の特性に応じた考え方を意識できるように振り返りの工夫を行ったりする。

3 題材の目標

(1) 関心・意欲・態度

自分の思いや気持ちをコントロールする方法について考え、伝えようとする。

(2) 自己理解

自分の気持ちをコントロールし、人や物に当たらない方法を知ることができる。

【心理的な安定2-(1)】 【人間関係の形成3-(2)】

(3) 自己選択・自己決定

自分の特性を理解し、困難な状況での対応を考えることができる。

【環境の把握4-(2)】 【コミュニケーション6-(5)】

4 指導と評価の計画

時	学習内容	主な評価基準
1	○アンガーマネジメントを行う。	・「許せる心」の広げ方を考えている。 (関) (理) (選)
2	○アンガーマネジメントを行う。	・「ケンカになったとき」の対応を考えている。 (関) (理) (選)
3	○アンガーマネジメントを行う。	・「友達が突然怒ったとき」の対応を考えている。 (関) (理) (選)
4	○アンガーマネジメントを行う。	・「遊びに入れてもらえなかったとき」の対応を考えている。 (関) (理) (選)
5	○アンガーマネジメントを行う。	・「先生に叱られて腹が立ったとき」の対応を考えている。 (関) (理) (選)
6	○アンガーマネジメントを行う。	・「自分だけが損をしている気がしたとき」の対応を考えている。 (関) (理) (選)
7	○アンガーマネジメントを行う。	・「約束を破られたとき」の対応を考えている。 (関) (理) (選)
8	○自分の特性を知る	・エゴグラムをもとに、自分の性格や特性を考えている。(関) (理)
9	○自分研究ノートをつくる①	・自分自身の得意と苦手を知り、退治したい苦手を選んでいる。 (関) (理) (選)
10	○自分研究ノートをつくる②	・自分自身の苦手をキャラクター化している。 (関) (理) (選)
11	○自分研究ノートをつくる③	・キャラクターがいつ出てくるのか、出てきたときにどのように対応するのか、書き込んでいる。(関) (理) (選)
12 【本時】	○自分研究ノートをつくる④	・キャラクターがいつ出てくるのか、出てきたときにどのように対応するのか、書き込んでいる。(関) (理) (選)

5 本時の指導

(1) 目標

自分の特性を理解し、自ら適切な行動を選択し調整する方法を考えることができる。

(2) 評価基準

評価の観点	評価基準
関心・意欲・態度	進んで学習している。
自己理解	自分の特性を考えている。
自己選択	自分でできる方法を考えている。

(3) 展開

段階	学習活動	●指導上の留意点 ◎評価	教材・教具
導 入 5 分	1 準備 2 あいさつ 学習内容・課題の確認をする。	●明るくあいさつをすることを意識させる。 黒板に学習の流れを示すカードを掲示し、確かめる。	

<p>展開</p> <p>35分</p>	<p>3 よつばの勉強</p> <p>(1) ブレインジム</p> <p>(2) 「知らせたいこと」の交流</p> <p>(3) 「漢字練習」と「負ける練習」</p> <p>(4) 自分研究</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> キャラクターの言動が出たらどうするかを考えよう。 </div> <p>4 やってみたい学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●気持ちに沿った動きを取り入れる。 やり方が分からない場合は、より具体的に教える。 ●聞き取るポイントを整理して伝える。 ●それぞれの課題に合わせ、個別に行えるように場を設定する。 A児…オセロ (担当者と→B児と) B児…漢字九九シート→オセロ (A児と) 負けたときにどういう気持ちで対処すればよいか考えさせる。 ●つくったキャラクターが出たときの行動を考えさせる。 <p>◎キャラクターがいつ出てくるのか、出てきたときにどのように対応するのか、書き込むことができる。[自己理解・自己選択] (観察)</p> <p>【環境の把握4-(2)】</p> <p>【コミュニケーション6-(5)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対応について交流し、お互いに意見をもらう。 <p>【人間関係の形成3-(2)】</p> <p>【コミュニケーション6-(5)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●手指を使ってできる活動の中から選択させる。 ・工作 ・ボールゲーム ●児童にとってはリラックスタイムであることを考慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブレインジムの掲示資料 ・漢字九九シート ・オセロ ・自分研究ノート ・ボール ・工作用紙
<p>終末5分</p>	<p>5 片付け</p> <p>6 振り返り</p> <p>7 あいさつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●児童に自分で最後まで片付けさせる。 ●できたことを褒める。黒板の授業の流れに花丸を付ける。 ●日常生活の中で、今日考えたことを実践していくことを確認する。 ●気持ちよく教室に戻れるように声掛けする。 	

☆エゴグラムとは…[エリック・バーン](#) (Eric Berne) の[交流分析](#)における自我状態をもとに、弟子であるジョン・M・デュセイ (John M. Dusay) が考案した性格診断法で、人の心^{こころ}を5つに分類し、その5つの自我状態が放出する心的エネルギーの高さをグラフにしたものことである。現在の自分の特徴を把握し、さらに自分が望むエゴグラムの状態を目指して、計画を立てて実行するということができる。